

特記事項

2. 紅海、中東等における危機対応

2023年10月7日にパレスチナ武装勢力ハマスがイスラエル人を殺害、拉致するなどしたが、これにイスラエルが反撃し、現在もイスラエル-ハマスの衝突が継続している。

イエメンの武装組織ホーシー(フーシ)派はハマスに連帯を示し、イスラエルがガザ地区への攻撃を停止するまでイスラエル関係船を攻撃すると発表して以降、紅海を航行中の自動車運搬船を乗っ取り、付近海域を航行中の船舶に対してはミサイルやドローンによる攻撃を繰り返し、海域の航行安全が阻害され続けている。

当協会は、海事局からの注意喚起の要請を踏まえるなどし、会員に対し航行安全の徹底を求め、また、適宜情報を展開している。

2024年3月までの状況は次のとおり。

2023年10月7日、パレスチナ武装勢力ハマスがイスラエルに対し、攻撃、イスラエルが報復、双方の武力衝突が継続している。

11月14日にイエメンの武装組織ホーシー派が、ハマス-イスラエルの軍事衝突に関し、紅海およびバブエルマンデブ海峡でイスラエル関係船を攻撃すると発表、19日、日本関係の自動車運搬船 GALAXY LEADER を乗っ取った。船舶は今なお解放されていない。

ホーシー派は紅海・アデン湾を航行する船舶に対し、ミサイルやドローンによる攻撃を繰り返し、被弾した船舶に火災が発生するなどした。

複数のコンテナ船運航会社は紅海の通航を中止し、喜望峰周りを発表した。他にも紅海航行を回避する船舶が増加し、2月にはスエズ運河通航船舶隻数が例年の半数以下を記録するまでに低下した。

ホーシー派による攻撃は30回以上を記録し、被害を受けた船舶は多数にのぼる。

このうち、1月26日にはタンカー MARLIN LUANDA が被弾、火災が発生、2月18日には貨物船 RUBYMAR が被弾、浸水、乗組員が退避したうえで、無人のまま漂流していたが3月2日に沈没、また、3月6日にはバルカー TRUE CONFIDENCE の居住区が被弾、乗組員が死傷するなど甚大な被害が発生し続け、海域の航行安全が阻害され続けている。

ホーシー派の攻撃に対しては、次の様な動きが認められた。

2023年12月18日:米、英、仏、蘭、伊等10か国の有志連合軍は Operation Prosperity Guardian(繁栄の守護者作戦)を発動し、航行船舶の保護を開始した。

12月19日:保険業界の Joint War Committee が紅海における危険水域の北限をこれまでの北緯15度としていたところを北緯18度まで範囲を拡大した。

12月22日:国際労使協議(International Bargaining Forum:IBF)がバブエルマンデブ海峡南部をハイリスクエリア(HRA)に指定した。

2024年1月3日:日本を含む米、英など13カ国はホーシー派に対し船舶への攻撃の即時

停止を求める声明を発表した。

1月10日:国際連合安全保障理事会は、ホーシー派を非難し、Galaxy Leader と乗組員の解放を求める決議を採択した。

1月11日:米英軍は Operation Poseidon Archer(ポセイドンの射手作戦)を発動し、イエメンにあるホーシー派の拠点への攻撃を開始した。これに伴い、米国は船舶に対し、向こう72時間は紅海の北緯12度から16度、アデン湾の東経46度から西の航行を控える様勧告した。ホーシー派はこれに対して、船舶への攻撃は米国、英国関係船も含むことを表明した。

2月16日:IBFはHRAを拡大することを決定した。

2月19日:当協会、ICSを含む30もの国際海事団体はGalaxy Leaderがハイジャックされてから3か月目となる同日、乗組員の早期解放を訴える声明を発表した。

2月19日:EUはOperation ASPIDES(盾作戦)を発動し、海域を航行する船舶の保護を開始した。